

「支える側が支えられるとき」

～認知症の母が教えてくれたこと～

藤川幸之助氏講演会

満月の夜
母を施設に置いて

「認知症の母とそれを支える家族の心の葛藤、悲しさ、混乱、喜びを通して、多くの人たちに認知症という病気を理解してもらいたいと考えています。認知症の母を介護して、私が母を支えていたと思っていましたが、母を介護する中で、私が母に人間性を引き出され、精神的に母に支えられていたと感じるのです。そして、母は今ベッドに横たわり、ただそこにいただけの存在ですが、母は未だに私を育ててくれていると思うのです。つまり、人はそこに存在するだけで大きな意味を持っていると思うのです。そういう思いを、詩を朗読しながら講演の中で話をさせていただきます。」(藤川氏HP <http://homepage2.nifty.com/kokoro-index/>)

日時:H24年11月29日(木)18:30～

場所:のぞみコミュニティセンター体育館
☆参加無料☆申込11月20日まで☆



◆藤川幸之助氏プロフィール◆

■詩人・児童文学作家。日本児童文学者協会会員。■1962年生。長崎大学教育学部大学院修士課程修了。
■認知症の母親に寄り添いながら、命や認知症を題材に作品を作り続ける。著作に6月新刊写真詩集『この手の空っぽはきみとつながるために空けてある』PHP出版、『満月の夜、母を施設へ置いて』対談・谷川俊太郎 絵・松尾たいこ(中央法規)『やわらかなまっすぐ』(PHP出版)『ライスカレーと母と海』(ポプラ社)『マザー』(ポプラ社)等。共著に『私、パリの認知症です』(クリエイツかもがわ)等多数。■全国各地で、認知症への理解を深めるため講演活動を行っている。

くつ靴を入れる袋をご持参ください!

お問い合わせ・申込:北海道認知症グループホーム協会日胆ブロック事務局
グループホームかしわ 荒川まで 0144-83-9111